

## METTS NEWSLETTER

教職課程センター・地域学校教育センター

## 特集 2021 明海大学シンポジウム

2021年2月6日(土)午後1時から午後4時10分まで、本学にとっては5回目となるシンポジウム「2021 明海大学～大学と地域連携の未来～」が、初めてオンラインで開催されました。今年度は「コロナ禍における学校教育と地域連携の在り方」のテーマで、3つの分科会に分かれて展開されました。Zoomによる開催でしたが、教育関係者をはじめ多数の皆様のご参加をいただきました。本学の学生や教職員等が実施した小中高等学校に対する支援の実施状況を紹介するとともに、本学の今後の地域支援の在り方を探ることができました。有意義な一日となりましたことを心から感謝申し上げます。

基調講演は、教育ジャーナリストの佐藤明彦氏から『コロナ禍で変わる学校教育のカたち～熊本市「奇跡のオンライン授業」を振り返って～』のご講演をいただきました。かつて「ICT後進自治体」と言われた熊本市が、どうして短期間でオンライン授業に踏み出せたのか？そこには、人材を育成するため全国に先駆けICT教育の導入を決断する人の姿がありました。どうしてもリスクを回避することに陥りがちな教育の常識を覆す刺激的なお話でした。

その後、「東京都立高等学校連携・日本語支援」「足立区教育連携・英語支援」及び「浦安市・横浜市教育連携」の3つの分科会で実施されました。総勢約240人の聴衆の皆様はZoomで参加していただきました。当日は近藤やよい足立区長、鈴木忠吉浦安市教育長から来賓挨拶をいただきました。今後コロナ禍の中で明海大学が地域支援をどのように進めていくべきかの方向性をより明確にすることができました。ご参加いただいた皆さんに心から感謝申し上げます。



安井学長 挨拶



基調講演 佐藤明彦様



パネルディスカッション風景



Meikai スタッフ集合！

\*写真撮影のためマスクを外しています。

## 総合司会を担当して

英米語学科4年 岩崎 力丸

過去4年間、あけみ英語村などのボランティアに参加してきましたが、今回、私は全体会の総合司会という大役を務めさせていただきました。

どの分科会も興味深いものばかりで、今後勉強を続けていくうえで参考になりました。改めて、明海大学の一員として連携事業に関わることができたことを誇りに思います。

今後もこの経験を活かし成長していきたいと思っています。

## Zoomでの活動報告を体験して

英米語学科2年 佐藤 向日葵

今年度のシンポジウムで、私は第3分科会の活動報告をさせていただきました。「浦安市青少年自立支援未来塾」の報告です。「未来塾」では中学生に対して英語の学習支援をいたしました。英語が苦手な中学生にどうすればわかりやすく教えることができるか、板書を上手に書くにはどうすればいいか等悩みましたがとても勉強になりました。また、未来塾の報告をZoomで発表するという貴重な体験をすることができました。この体験を将来の教員生活に活かしたいと思っています。

## 勉強合宿 in Urayasu Campus 教員採用試験特別講座について&lt;予告&gt;

教職課程センターでは、2月17日(水)から26日(金)までの計7日間、教育原理、教育法規、教育時事、学習指導要領等の特別講座を予定しています。コロナ禍の関係で今年は勝浦での勉強合宿も形を変えての実施になります。今年の7月に受験する4年生だけでなく、3年生や2年生の学生も参加することができます。自学自修のための時間も確保しています。合格を祈念した多数の学生の皆さんの参加を希望いたします。

アゴラ活用状況(人)

1月	640
2018年度 から延べ数	32,868

## ボランティア活動報告とOBの活躍



### 明海大学教職ボランティア活動報告会開催

2021年1月22日（金）「明海大学教職ボランティア活動報告会」が開催されました。今回は卒業を迎える内藤卓さん、白井萌さん、金子駿太さん、鶴巻紗希さん、信太明日華さん、山崎紗緒里さん、錦織由佳さん、宮本隆一さん、神谷美麗さんの9人の学生が、コロナ禍の中ではありましたが、浦安市内の小学校等に「教職ボランティア」として出向き素晴らしい成果を残してくれました。ボランティアに参加している学生は多数いますが、9人の学生はそれぞれの体験を踏まえて、自分の言葉で聴衆に語りかけ、フロアからの質問にも自分の言葉で応えていました。ボランティア活動を通して一層成長した姿に感動しました。



木村直純先生は、明海大学外国語学部日本語学科を2005年度に卒業され、現在は船橋市立船橋高等学校国語科教諭、そしてサッカー部部長として活躍されています。その木村先生から、明海大学の学生の皆さんへのメッセージを書いていただきました。今年1月、埼玉スタジアム2002で開催された「第99回全国高校サッカー選手権大会」では「市船」はベスト8の結果を残すことができました。



### 「母校の後輩の皆さんに贈る言葉」

#### ～船橋市立船橋高等学校教諭 木村直純先生からのお言葉～

船橋市立船橋高等学校、普通科留学教育コースに籍を置きサッカー部に所属していた私はサッカーの競技力向上と国語科教員免許状取得を考えて明海大学へ進学しました。私の学校生活は部活動と学業の両立を念頭に置いたものでした。部活動の練習時間を考慮して授業の履修をしたため1限の授業を受講してから部活動。その後21時まで受講するという日もありました。曜日によってはアルバイトがあり1日の予定を常に一杯詰め込んでいました。理由は時間を最大限に有効活用しようと考えたためです。部活動では関東大学サッカーリーグ参入という目標にはあと一歩及びみせましたが仲間とかけがえのない時間を過ごすことができました。授業では先生方に温かくご指導いただきました。

4年生となり卒業後の進路選択の際には私はプロサッカー選手の道を追うことを決めました。日中は県立市川工業高校の臨時任用講師として勤務。その後に関東社会人リーグに所属していた古河電工千葉での練習に参加しました。翌年は県立浦安高校の非常勤講師として勤務。アマチュアリーグの最高峰であるJFLに所属するジェフユナイテッド市原千葉リザーブスのメンバーとして選手生活を送りました。その間に国民体育大会での全国大会優勝を達成することができました。しかしプロサッカー選手になる夢は叶わず現役後の目標としていた教員を目指すこととなります。

講師を2年間経験し採用試験合格後は県立生浜高校定時制の課程に4年間勤務しました。その後、母校である市立船橋高校へ転勤し今年で9年目を迎えます。私の教員としての喜びは生徒の成長です。特に国語科の教員としては生徒の言葉に対する感覚を鋭敏にすること。多角的なものの見方をさせること。そして伝え合う力の養成を念頭に置いて指導にあたります。これらはすべて思いやりです。思いやりこそ生徒の成長の基盤であり、その後の人生を豊かに幸せに過ごすために必須であると考えます。部活動指導では技術指導も行いますが、あくまでも補足であり、本質は教科指導と変わらず思いやりの養成です。顧問として全国大会の優勝を経験しました。そしてJリーガーや日本代表選手となっていく多くの生徒を指導しましたが、思いやりこそが人を育てる、この思いはより強固なものとなりました。後輩の皆さん、充実した学生生活を送りいつか同じ職場で働けることを期待しています。頑張ってください、応援しています。